



## No.045 マイナンバー制度の不幸なおいたち 不安感を払拭するために不便にする？



私は普段マイナンバーカードを持ち歩いてます。福岡市では住民票や印鑑証明をコンビニで市役所窓口よりも50円安く入手できるし、単に便利だからです。

ところが番号のところは見えないようにわざわざ目隠ししてあるし、会社でもコピー取るなとかうるさいし、どうも他人には見せてはいけない、見てはいけないものらしい。というあたりから、マイナンバー制度は面倒で厄介な存在になってしまった感じです。

本来マイナンバー+公的サービスのデジタル化は利用者の利便性を飛躍的に高めるはずです。例えば相続・引っ越しの手続きや病院・薬局で毎回、住所、氏名、年齢を書かされますが、番号で電子的に処理できればずいぶん便利になるでしょう。

しかし国が情報を持ちすぎると心配だ、情報が漏れたら怖い、と多くの人はカードを作ろうとしません。そんな中、一方で番号は3分野以外の目的には使いませんと言ひながら、他方でカードを幅広く活用しましょうという今の政策。一体どっちなんだ！ ナンバーとカードは別、と政府は言うけど…？？？

憲法問題とか、情報連携とか、難しい議論に振り回されて複雑怪奇、自縛自縛となっているマイナンバー制度はもっとシンプルに使いやすくなった方がいいと思います。

個人番号はなぜ他人に見せてはいけないのでしょう。

名前も番号も、ある個人を特定するためのツールです。名前を見せてはいけないということはありません。もちろん名乗りたくないのに名乗る必要はありませんが、ポイントカードを作るときは同意の上で名前を書くし、サービスが受けられるのなら名前を使ってコンピューター管理されても特に文句は言いません。名前に番号を付記すれば同姓同名でも他人と間違えられることはないので、番号も名前の一部と考えればいいと思うのですけどね。

行政が法令で無理やり強制的に名前(番号)を書かせようとすればいろいろ厳格にルールを決めなければならなくなるけど、ある行政サービスを受けたい人は名前(番号)を書く、と考えればもっと柔軟に番号を使えるのではないでしようか。



# 谷口博文の政策イノベーション

Date : 2020年 1月18日

## No.046 マイナンバー制度の不幸なおいたち 不安感を払拭するために不便にする？

民間では、個人情報を提供して無料でテレビ電話ができたり、マッチングできたりするサービスがたくさんあります。

国や自治体も公的サービスを受ける条件として番号を使えばいいと思うのですが、今の制度は規制ばかり多くて、国民へのサービスという発想がないですね。わかりにくくし、政府提供のマイナポータルも使いづらいし、ユーザー中心(User-centered Design)になってない…  
便利さを犠牲にすることによって不安を抑えるのではなく、便利なサービスをどんどん提供することによってユーザー(国民)の信頼を得る方向に行ってほしいと思います。